

オゾン水消毒が著効した Fouriners 壊疽

八木 誠司¹⁾，八木 健司²⁾，武井 明³⁾，木村美嘉子³⁾，
大野 雅治⁴⁾，八木 博司¹⁾

医療法人八木厚生会 八木病院

1) 外科，2) 整形外科，3) 糖尿病内科，4) 神経内科

Fourniers gangrene is a rare but serious infection with an acute onset, rapid progression to gangrene, toxemia and a high mortality. Especially combined with diabetes mellitus (DM). The recommended treatments are not only surgical debridement, broad spectrum antibiotics and Hyperbaric Oxygen treatment (HBO), but also ozonated water to sterilize surface of the infected wounded.

はじめに

Fouriners 壊疽とは，陰部膿瘍や骨盤腔内感染が波及し生じた壊死性筋膜炎であり，糖尿病を合併した場合は難治性であり感染の増悪により死亡率が通常より高くなる。そのため，しばしば患部の切断を要求される事がある。我々は大陰唇膿瘍に対して切開排膿を行い治癒していた症例が，1 ヶ月後に糖尿病の増悪を認め Fouriners 壊疽を併発した症例を経験し，患部の殺菌消毒を目的にオゾン水消毒を施行し，下肢切断を行う事なく救命し得たので報告する

症例

57歳女性。既往歴に糖尿病があり，近医にて経過観察されていた。平成14年3月16日，当院で左大陰唇膿瘍の診断で入院の上切開排膿を行っていた。経過中異常を認めず3日後に退院となった。その後の外来受診にて創部の異常を認めなかった。しかし，4月22日頃より，臀部の疼痛を訴え，近医受診し，画像診断にて左臀部を中心に下腿までのガス貯留像を認め，紹介入院となった。患者は，糖尿病に対する病識が薄く初回当院退院後，近医での経過観察，治療が全くなされておらず，糖尿病の増悪が創傷治癒を遅延させガス壊疽を生じた事が考えられた。患者は，当院入院後に感染源の排除を目的に数回の壊死組織除去術及び連日のオゾン水消毒，高気圧酸素療法及び糖尿病のコントロールを行った。結果的に，感染の増悪は鎮圧され下肢切断を行う事なく救命する事ができた。